

代 表 者

行 政 視 察 報 告 書

平成 30 年 4 月 2 日

各 会 派 代 表 者 殿

呉市議会議員

平	岡	正	人
梶	山	治	孝
渡	辺	一	照
石	崎	元	成
神	田	隆	彦
谷		惠	介

次のとおり行政視察したので報告します。

1. 視察期日

平成 30 年 3 月 27 日 (火) ~ 29 日 (木)

2. 調査項目

秋田市 秋田市農業ブランド確率事業について

大仙市 小中学校における学力向上の取り組みについて

3. 参加議員

平岡正人 梶山治孝 渡辺一照 石崎元成 神田隆彦 谷 惠介

秋田県秋田市

■調査項目

秋田市農業ブランド確立事業について

・調査対応者

秋田市産業振興部産業企画課	課長	新出 康史
	主席主査	小原 千良
	主査	伊藤 史晃
議会事務局議事課	課長	大志賀雅孝

・調査期日

平成30年03月28日(水) 午前10時から11時30分

・秋田市の概要

人口：315,814人

世帯数：142,730世帯

・調査目的

呉市農業ブランド具現化対策に期する先行調査

・調査内容

(秋田市からの説明と質疑応答)

農業ブランド確立総合戦略は、①その目的と背景として、当市の農畜産物販売額の7割を米が占めているが、農業経営が米価に大きく影響される課題があり、園芸作物の生産拡大や6次産業化を図る必要があった。②生産地としての地位を強化するために品質向上に向けた地域一丸となる取組が必要であった。③これらから当市農産品全体の価値向上と、情報発信などを沿海する必要があった。

これらから、個別の農産品のブランディングではなく、秋田市農業の全体に光を当て、その価値を高める「農業ブランディング」を推進している。

期待される効果としては、消費者に価値をアピールする効果と、農業に携わる人々の連携を強める効果である。

H28年度は総合戦略の策定、H29年度からは地産地消を強化している。

さらにH30年度から首都圏への働きかけを強化している。

「JR、秋田出身者などの応援を得て首都圏に進出」

・呉市での展開の可能性

秋田市の農業ブランド戦略は、単品としての生産物をブランド化することより、農家のグループ化としてその価値を向上させる目的が強い。ブランドネームを「農家のパーティー」とし、その仲間意識の醸成を図っている。また、街と産地が非常に近く、消費側と生産者側の情報交流が盛んになっていることも成功の一つと言えよう。特産物としては現在枝豆、ダリアがあるが、枝豆の冷凍加工研究中など見習うべきことも多い。

地場産品の活用推進策としては、地産地消推進店を募り、現在小売店を含め、現在73店を擁しているが、これらの推進と首都圏への進出に大きな咨磋を得たと考慮する。産地と街が近いことや、生産者同士のグループ化など呉市が導入すべき事象があると考え、呉市産業の保護と育成に更なる努力を要するものと思う。

・秋田県大仙市

■調査項目

小中学校に学力向上の取組について

・調査対応者

大仙市	教育委員会	教育長	吉川	正一
	教育指導部	部長	伊藤	雅己
		次長	佐藤	厚子

・調査期日

平成 30 年 03 月 28 日 午後 15 時から 16 時半

・大仙市の概要

人 口 : 83,578 人

世帯数 : 31,311 世帯

人が生き人が集う夢のある田園交流都市

・調査目的

ふるさとに環流することを学ぶ教育の探求

・調査内容

(大仙市からの説明と質疑応答)

大仙市の市立小学校 21 校 児童数 3, 594 人 H29 年 4 月 1 日現在

市立中学校 11 校 生徒数 1, 856 人

新しい時代の学校教育「大仙ビジョン」の策定するにあたり、大災害、社会や経済状況、国際化、少子高齢化、多様性、、、、などの環境変化と少子化の急速な進行や学級数・児童数の減少等の現実から、学校規模の適正化、保護者・地域住民との連携体制整備、幼保・小中高・大学との交流連携を検討した。

大仙市の教育大綱として、生きる力を育み、社会を支える創造力あふれる人づくり「共（ともに）創（つくる）考（かんがえる）開（ひらく）」を教育目標とした。

生きる力の育成として、①基礎となる力「思いやり、たくましさ、市民性」②学ぶ力「習熟、探究、グローバル」③生かす力「地域に根ざしたキャリア教育、ESD」の過程を経て、地域活性化に寄与できる子供の育成に努めている。

「共、創、考、開」を事業推進のキーワードとして、共に支え合う力の育成、創造的に生き抜く力の育成、考え生かす力の育成、開き信頼される力の育成を実施している。

1. 共では、ふるさと教育の推進、学校生活支援の充実、教育相談体制の整備と相談活動の充実
2. 創では、キャリア教育の推進、国際理解・国際交流活動の推進、生徒会活動の連携、豊かな心・創造力を育む教育の充実
3. 考では、学ぶ意欲を高める指導、学力・心力・体力を高める学び、学習活動支援
4. 開では、開かれた学校、学校訪問実施、教職員研修、教職員ネットワーク活用等を柱に各活動中。

特筆すべき事項としては、一人の子供を複数の目で見ると、学校生活指導員等の配置、ノーメディアデーの実践、大仙ふるさと博士号授与(後述)、中学生の首都圏大学・オーストラリア派遣、国際教養大学と教職員の共同研究、一人勉強ノートによる学習習慣確立(後述)などがあり、秋田県での学力・学習調査でも優秀であった。

・呉市での展開の可能性

当市の教育には、多くの参考となる事象があると思われる。

先ず、ふるさとを大切にし、将来大仙市に環流する人材の育成である。教育委員会が学校に入ってくる生徒児童ではなく、入りたい学校づくりを目指している。

さらに、生徒児童が自分の研究・勉強テーマを探して、これに挑戦する「一人勉強ノート」による教師と保護者のノート中身の見守りは呉市も研究すべきであろう。

さらに、ふるさとを大切に教育として、大仙ふるさと博士の育成が注目される。生徒児童が市内のいろんな処に出向き、見学し、指導を受けこれを重ねることである。ふるさと博士号の称号を付与される仕組みである。これは呉市でも実施すべきで、郷土愛の醸成に効果があるものと思われる。

さらに、教師と生徒子供が何でも話し合える時間の確保について教育長の、「何事もそれが生徒児童のためになるか否かを判断の基準としている」との意見には、我々もおおいに賛同した。

以上